

## 4. コロナウイルス感染症の変遷

### 肺炎ウイルスから上気道炎ウイルスへ

武漢で新型コロナウイルス感染症が勃発して以来、日本でもこのwild株、アルファ株、デルタ株までの1年半は感染するとほとんどが肺抹消の肺胞・間質に炎症を起こし、酸素が取り込めないことによる呼吸困難と空咳が特徴的でした。しかし、オミクロンになって肺炎の症状を呈す患者さんはめっきり減り、ノドの痛み、鼻汁、痰を伴う咳、頭痛など、インフルエンザと同様な典型的な上気道炎に変化しました。弱毒化です。真に有功な抗ウイルス剤のなかった肺炎の時代には、自然（自力）で治るしかなく、若い人にも命のリスクがありました。現在は、ウイルス感染自体による命へのリスクはありませんが、重い上気道炎が体力を削ぐことによって、要介護者などの弱った高齢者には、入院や命に対す

るリスクが残ります。新しい抗ウイルス剤はウイルスの排除を1日早めるため、各種症状の消失も1日早めます。このため、要介護者や基礎疾患の重い高齢者などが体調を崩さない効果が期待できます。しかし上気道炎でも、一度副鼻腔炎を起こすなどこじらせると長引いたり、肺炎になるなど体調を崩します。このため、上気道炎を崩さない治療が大切です。

### 感染力が増大

新興感染症で人に免疫がないため、もともとうつりやすいウイルスでした。オミクロンになり感染力が増しました。その後も市民の感染防御対策が緩んだこともあいまって、この夏の株は昨夏以上の感染力を持っていると感じます。無駄な感染は避けるのが得策です。

### 編集後記

この夏は世界的に猛暑に見舞われました。これを避けるように、数日、道央を訪ねました。気温は2-3℃低かったもののそれなりの気温で、思ったほど涼しくありませんでした。41年ぶりで記憶も曖昧でしたが街は高層ビルが立ち並び、郊外や地方も新しい道路が広がり、道が悪くて崩れるなどの事故があった半島は新しいトンネルを含め、地の果てのイメージは消えていました。150年程度の歴史しか無い北の大地は、開発が急激に進んでいるものの、近代人が懸命に生き、開拓してきた努力の跡がそここに満ちていました。休暇中、近年読むことのない小説を7冊読みました。5冊は学生時代に読んだものです。当時は年齢に近い主人公や自分が通り過ぎてきた子どもたちの言葉や心情に感情移入をしつつ、自分や近しかった人々を登場人物に重ねながら筋を追いました。親やその上の世代の語る発言の重さには気づかず、取った行動もあまり理解できずに読んでいました。40余年後の再読では、多くの登場人物の年齢を経てきたことで、人々の通ってきた人生の光と影、語る言葉が心に響き、当時は分からなかったストーリーの展開、小説の主題や面白さが少しわかったような気がしました。意図せず小説の舞台を訪ねていたこともあり、景色やそこに漂う空気に触れ、描写されている情景をありありと感じることもできました。まるで自分が本の中で息をしているような作家の描写力の凄さを目の当たりにし、少しでも学びたいと思いました。

## 山口内科

〒247-0056  
鎌倉市大船3-1-7  
レガート大船201  
(JR駅東口徒歩4分)

### (診療時間)

	月	火	水	木	金	土
AM8:30-12:00	○	○	○	○	○	8:30-
PM3:00-7:00	○	○	×	○	○	2:00まで

(代診のお知らせ) 毎第2、第4木曜日の午後

電話 0467-47-1312  
発熱・せき 0467-47-1314

<http://www.yamaguchi-naika.com>

# すこやか生活

第25巻第3号

発行日令和5年8月25日

編集：山口 泰



目次:	ページ
最近の変異株とコロナ事情	1
秋からのコロナワクチン	2
一般的なコロナ治療	3
最近の抗ウイルス薬	3
コロナウイルス感染症の変遷	4
編集後記	4



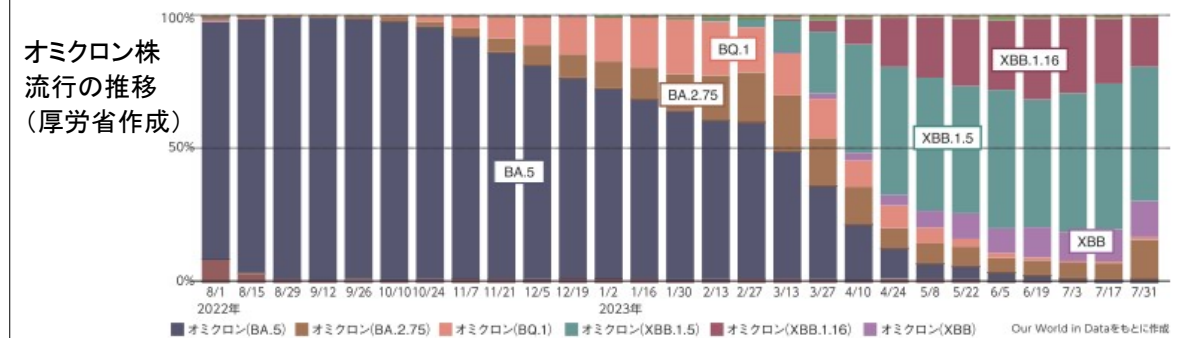
## 1. 最近の変異株とコロナ事情

5月8日に5類感染症になって以来、夏に向かって感染者数が増えました。感染防御の緩みが原因です。しかし、現在はオミクロン派生変異株ばかりで、ほとんどがXBB1系統のため、感染力は強いもののコロナ肺炎になることはないため、上気道炎で終わりインフルエンザと同等の危険度です。

この他、現在世界で増加中の変異株であるEG.5（通称 エリス）、EG.5.1は、韓国、中国ほかで主流となっており、近々日本でも流行すると考えられます。また、現在各国で出てきたBA.2.86株

は、数カ所だけの変異しかなかった今までの派生株と異なり、スパイクタンパクの変異20カ所にのぼり、簡単に免疫をかいくぐるため、まだごく少数ですが、監視下に置く株に指定され注目を集めています。

今年は日本だけでなく世界中で山火事が起こるほどの酷暑で、エアコンがよく効く密の場に人が集まり、コロナの感染が広がっています。しかし、高齢者でも施設に入所しているレベルの感染者以外は入院例は少なく、病院が逼迫することはありませんでした。今後は秋に向けて換気をするようになれば流行は収まるでしょう。



## 2. 秋からのコロナワクチン

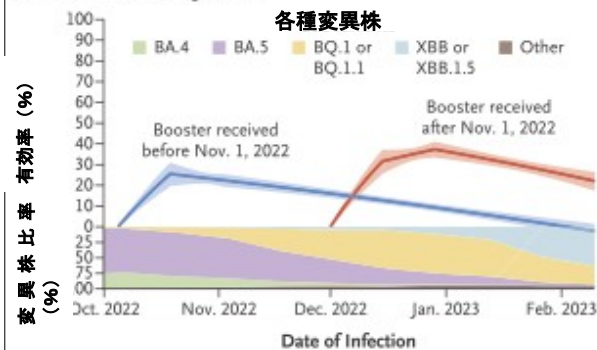
コロナワクチンは当初、有効率が95%と唱われ、大いに推奨されました。ウイルスは武漢株(Wild株)、アルファ、デルタ、オミクロン各種の変異株が入れ替わり立ち替わり流行し、現在はすべてがオミクロンより派生した変異株ばかりとなりました。ワクチンも、オリジナル、オミクロンBA1二価ワクチン、BA5二価ワクチンと後を追いつき、秋からはXBB1.5対応1価が始まります。ところが接種しても次々に感染するため、重症化予防にはなるが、感染を防ぐことができないとも言われ、最近では期待が後退しています。図は2023年5月に出た、BA5二価ワクチンの効果です。(NEJM)

図Aは、感染予防効果とその持続期間です。がっかりですが、ピーク時の接種後2-4週間の感染予防効果はたった30%にすぎず、しかも10週間経つと20%以下に下がってしまいます。この結果からは、感染予防効果はあまり期待してはいけな

と考えられます。図Bは同じくブースター接種の感染予防効果です。こちらも、感染予防は30-40%程度で、新しい株に入れ替わると、感染予防効果が落ちてくる

ことがわかります。図Dは同じくブースター接種の入院予防

### B 追加接種からの感染に対する効果



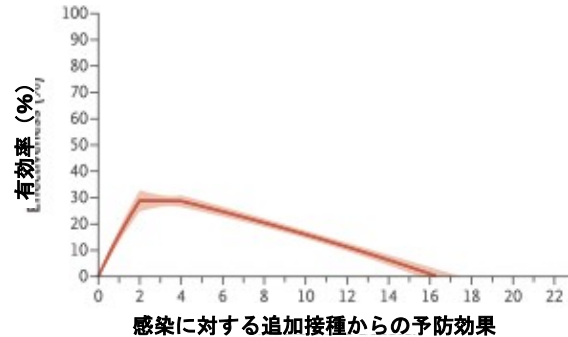
効果です。これは、重症化予防効果とも言える結果で、こちらは50%~70%ほどの効果は期待できますが、やはり新しい株が流行って来ると効果が落ちてくる

ことがわかります。これらより①mRNAワクチンは流行中の株のワクチンを速やかに作れるものの、ワクチン作成、流通、接種とすすむのに最低でも6ヶ月かかり、接種時には次の変異株が流行してくると

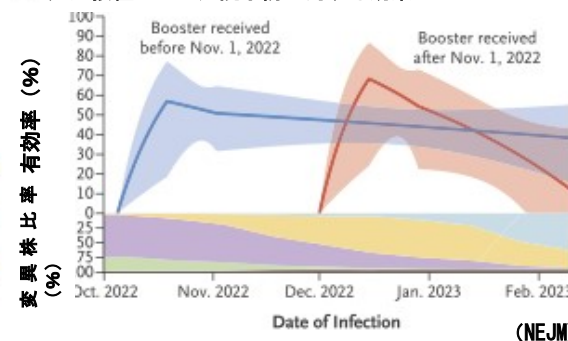
いう時間差が生じ、効果が減少する。②ワクチンの効果は短時間に限定される以上より、次と考えられます。

- 1) 感染予防効果は期待できない。
- 2) ワクチンの予防効果は持続時間が限定的で、流行の直前に接種したい。
- 3) 重症化予防効果も新変異株で落ちるので、接種する場合最新の株のワクチンを接種すべき。

### 感染に対する効果



### D 追加接種からの入院予防に対する効果



## 3. 一般的なコロナ治療

抗ウイルス剤以外にもコロナの症状を軽減する治療は行われます。一般的なのは、カロナールなどの消炎鎮痛解熱剤、咳止めのメジコンやリン酸コデイン、昔からノド痛の薬として使われてきたトラネキサム酸などで、これらは大量に消費されたため、この3年の間に市場から消える場面もありました。しかし、残念ながらこれらの薬は解熱効果以外、あまり効果的ではなかった印象です。理由は、我々医師がこれらの対症療法をあまり深く考えず、古色蒼然とした処方

### 消炎鎮痛解熱剤の選択：

アメリカかぶれの医療者の影響で、カロナール(アセトアミノフェン)がもてはやされましたが、解熱効果はそこそこでも鎮痛効果が不十分で、ノドの痛みや頭痛などが軽減せず苦戦する患者さんが目立ちました。最近ではより鎮痛効果が高い、ロキソニンやイブプロフェンが選択されることが多く、これらを飲んだ事があり問題がなければこちらがよいでしょう。

### 咳止めの選択：

最近、コロナ後に2週間も1月も咳がとれないと言う患者さんをよく見かけます。こ

のほとんどが、咳止めを飲んでも咳がとれないという人々です。では、どうしたら良いのでしょうか?咳止めの多くは、気管や気管支に分布する知覚神経の神経活動を抑え、知覚を麻痺させることによって咳をおこさないという効果を期待します。これは、間質性肺炎だったオミクロン以前のコロナにはある程度有効でしたが、コロナ肺炎を起こさなくなったオミクロン以降の咳にはあまり効果がありませんでした。最近のXBB1などではインフルエンザと変わらないほどの上気道炎なので、これに見合う咳治療の戦略が必要です。上気道炎の咳の多くは主に、後鼻漏を吸い込んで、それを出すために咳をするという「むせ」が原因です。したがって、後鼻漏対策がコロナの咳治療の

### ノドの痛みの治療の考え方：

ノドは両顎の下にある扁桃腺が原因と考える人が多いのですが、開口部の突き当たり、喉ぼとけの痛みは別物です。どちらなのか確認しましょう。喉ぼとけ付近の痛みがあり、鼻をすすっていたり痰が出るようなら後鼻漏がその部位に垂れて付着し炎症を起こしていると考えられます。この場合も後鼻漏対策が有効です。なお、消炎剤は、解熱効果に加え鎮痛効果の高いものほどノドの痛みにもよく効きます。

### 最近の抗ウイルス薬

新型コロナウイルス感染症が始まってから、未承認ながらも様々な抗ウイルス薬が使われてきました。注射薬のレムデシビル、内服薬のモルヌプラビル、パクスロビドなどがありましたが、どれも本当に効果があるかわかりません。効果が明らかではないとのデータに沿って使われなくなった国もあります。残念ながら日本ではまだ多く使われ続けています。

また、スパイクタンパク中和抗体などが使われてきました。これはワクチンで作られる免疫抗体

と類似なので新しい変異株が出てくると、太刀打ちできません。

### ゾコーバ(エンシトレルビル フマル酸)

日本で開発された抗ウイルス薬で、内服すると、ウイルスの消失や症状の回復を24時間程度早めます。ちょうど、タミフルなどインフルエンザの薬と同様の効果が期待できます。現在は公費で賄われるため無料ですが、10月からは保険対象となってしまう、3割負担でも1万5千円位になってしまいます。